

2. 永平寺町の景観



「きれいなホタル」

令和3年度永平寺町小学生風景絵画作品展 中学年の部 最優秀賞

(1) 永平寺町の主な景観

① 農地・農村集落景観

■ 景観の概要

- ・豊かな田園の他、本町の特産品である「そば」や「にんにく」等が栽培されており、四季の彩りある農地が広がる景観が見られます。
- ・各地域に越前瓦屋根の伝統的な民家による集落が見られ、主要な道路からは、田園と一体的な景観を見ることができます。伝統的な民家が集積する7地区が福井県から「伝統的民家群保存活用推進地区」として指定されています。
- ・農地・農村集落景観の維持には、持続的な農林業の振興を図るとともに、観光振興にもつながるよう、農地景観を保全育成することが重要です。

■ 主な景観



田園（上吉野地区）



伝統的民家群保存活用推進地区（京善地区）



れんげ畑（上合月地区）



伝統的民家群保存活用推進地区（栃原地区）



そば畑（諏訪間地区）



伝統的民家群保存活用推進地区（中島地区）

② 市街地景観

■ 景観の概要

- ・松岡地区の中心部には、永平寺町役場や図書館、公民館等の公共施設が集積しています。国道 416 号沿い等には商業施設が多くみられ、九頭竜川沿いには新興住宅地が広がっています。
- ・本地区には藩政時代の歴史的な街並みが残る「松岡十二曲り」があり、伝統的な家屋や造り酒屋等がかつての名残をとどめています。
- ・御陵地区では、「福井県立大学」や「福井大学医学部」の他、専門学校等が集積し、一大学術拠点となっています。周辺には学生アパート群がみられ、周囲の田園と調和した都市景観を形成しています。

■ 主な景観



手前が中心市街地の松岡地区、右奥が大学等が立地する御陵地区



松岡地区の役場周辺、手前は松岡小



明神社から眺める松岡市街地



県大や福大医学部周辺の学生アパート群



福井県立大学

③ 山地景観

■ 景観の概要

- ・ 本町は山地が広範囲を占め、「浄法寺山」をはじめ、「吉野ヶ岳」、「二本松山」、「大佛寺山」、「城山」など、標高1,000m前後の山々が連なっています。山林には、四季を彩る落葉広葉樹が見られますが、針葉樹も多い状況です。
- ・ 山林には、北陸最大級の大きさを誇る「手繰ヶ城山古墳」のほか、「二本松山古墳」、「石舟山古墳」、「鳥越山古墳」、「春日山古墳」等、数多くの古墳群がみられます。
- ・ かつて「道元禅師」が通った「吉峰寺」から「大佛寺山」を渡り、「大本山永平寺」へ至る登山道「祖跡巡拝山岳コース」等、登山やレクリエーションの場として、町民に親しまれています。

■ 主な景観



九頭竜川と背景の山並み



山々に囲まれた大本山永平寺参道



えちぜん鉄道と背景の山並み



城山登山口



北陸最大級の大きさを誇る手繰ヶ城山古墳



手繰ヶ城跡

④ 河川景観

■ 景観の概要

- ・ 町の中心を東から西へ流れる清流「九頭竜川」は、「サクラマス」や「鮎釣り」のメッカであり、「永平寺大燈籠ながし」や「カヤック体験」等のイベントが行われています。
- ・ 九頭竜川に架かる橋からは、「浄法寺山」や「白山連峰」を望めます。
- ・ 九頭竜川の堤防はサイクリングルートになっており、河川敷の「松岡河川公園」、「永平寺河川公園」、「中島河川公園」はスポーツやレクリエーション活動に広く利用されています。
- ・ 永平寺地区を流れる「永平寺川」では、「大本山永平寺門前地区」において、河川の修景整備が行われ、参道の魅力を高めています。
- ・ 吉野地区を流れる「荒川」では「ホタル」が見られ、貴重な自然環境が地域住民によって守られています。

■ 主な景観



九頭竜川での鮎釣り



九頭竜川の永平寺大燈籠ながし



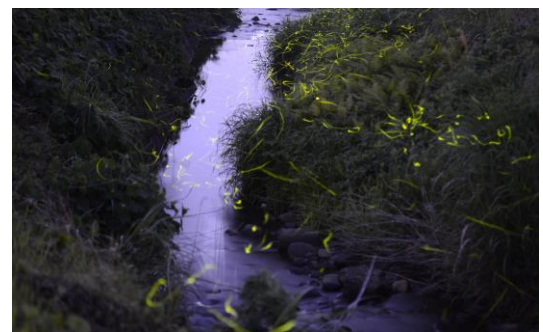
九頭竜川河川敷の中島河川公園



永平寺福井自転車道（九頭竜川堤防）



修景整備された永平寺川



ホタルの里 荒川

⑤ 沿道景観

■ 景観の概要

- ・ 本町には、東西に走る中部縦貫自動車道、東西南北に走る国道 416 号、国道 364 号、鮎街道等の幹線道路の他、自転車歩行者専用道で自動走行運転サービス「ZEN drive」も運行する町道「参ろ一ど^{まい}」等の道路ネットワークが形成されています。
- ・ 幹線道路からは、市街地景観や田園風景、九頭竜川の清流、桜並木等を眺めることができ、中部縦貫自動車道からは、山地が開けた部分から本町の街並みや自然景観を一望することができます。
- ・ 国道 364 号では、「大本山永平寺」に向かうにつれ高い山地が左右に迫り、幽玄な雰囲気醸し出しています。

■ 主な景観



「大本山永平寺」に向かう国道 364 号



「大本山永平寺」の門前通り



松岡市街地の中心部を走る国道 416 号



松岡市街地内の「松岡十二曲り」



鮎街道（県道勝山丸岡線）の壮大な桜並木



永平寺参ろ一ど^{まい}（自転車歩行者専用道&自動運転）

⑥ 眺望景観と視点場

■ 景観の概要

- ・町の中心部を流れる清流「九頭竜川」に架かる「北島鮎大橋」や「五松橋」等の橋梁は、雄大な川の流れの背景に「白山連峰」や「浄法寺山」等が見える絶好の眺望ポイントとなっています。
- ・近年再整備が行われ、桜の名所としても知られる「松岡公園」からは、松岡市街地の街並みを見渡すことができます。
- ・「波多野城跡」がある「城山」や高台にある生涯学習拠点施設「緑の村ふれあいセンター」のグラウンド等からは永平寺市街地や田園、農村集落などを見渡すことができます。

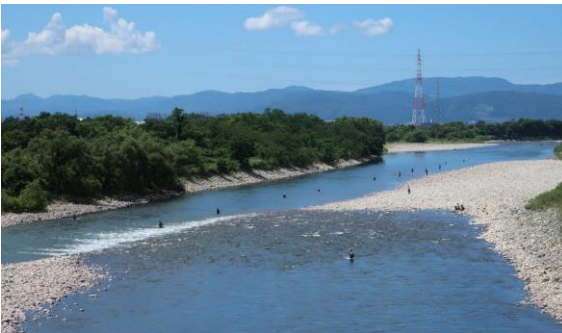
■ 主な景観



九頭竜川と遠景の白山連峰



松岡公園から見渡せる松岡市街地



五松橋（九頭竜川）からの眺望



城山から見渡せる永平寺市街地



北島鮎大橋（九頭竜川）からの眺望



緑の村から見渡せる農村集落

⑦ 建築景観

■ 景観の概要

- ・町内には、「大本山永平寺」や「吉峰寺」等の古い歴史をもつ寺社、藩政時代の面影を残す「造り酒屋」、道の駅「禅の里」や魅力発信交流施設「えい坊館」等の町公共施設、「福井県立大学」などの近代的な中高層ビル、「九頭竜川鳴鹿大堰」や「永平寺ダム」等の社会インフラ施設など、様々な時代の建築物・建造物があります。
- ・町内の建築物や建造物などが、ランドマークとしてまちのシンボルとなり、町民や来訪者に広く親しまれています。

■ 主な景観



大本山永平寺



吉峰寺



天龍寺



松岡地区の造り酒屋



四季の森文化館



旧京都電燈古市変電所



えちぜん鉄道永平寺口駅旧駅舎



道の駅「禅の里」



町魅力発信交流施設「えい坊館」



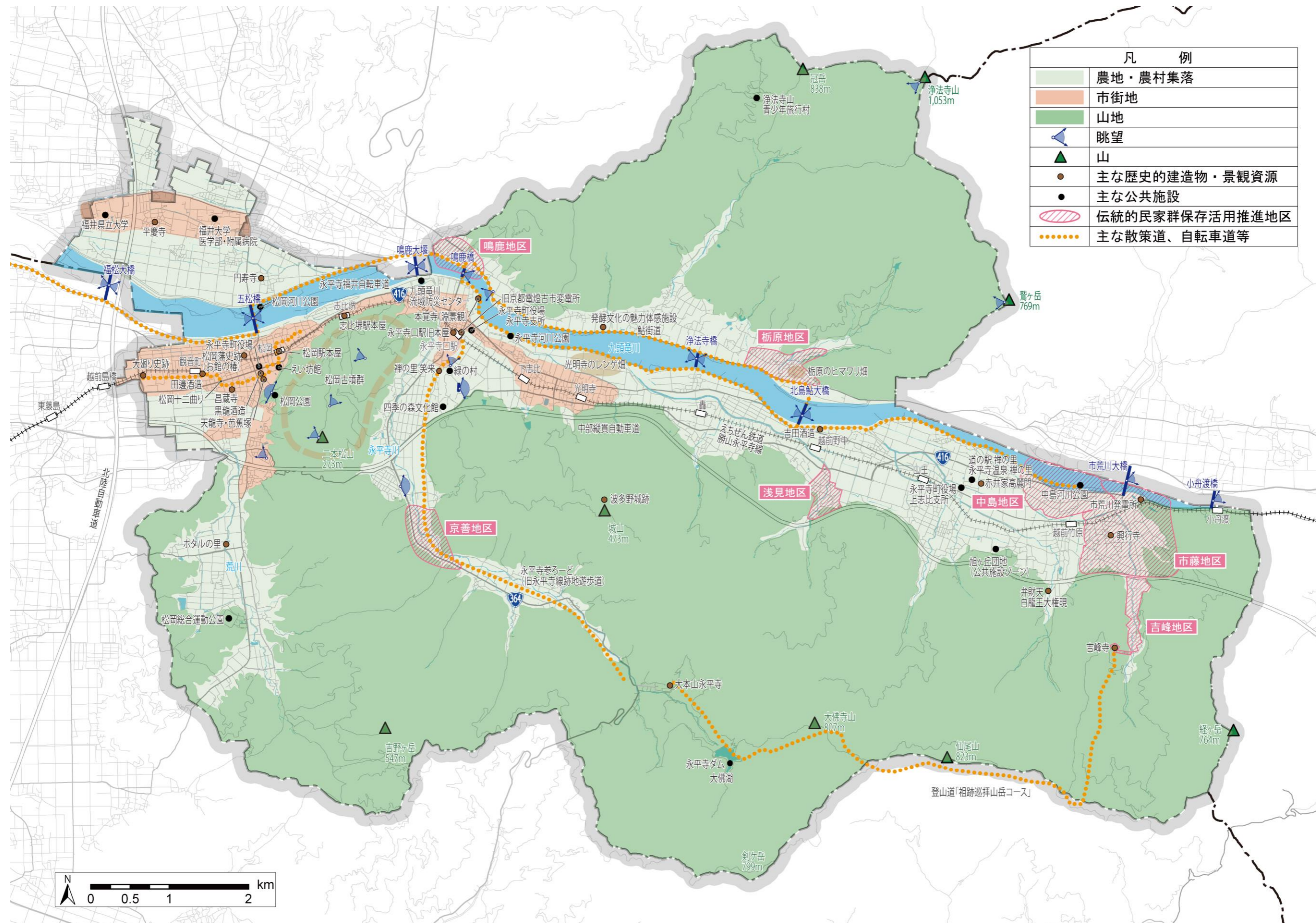
九頭竜川の鳴鹿大堰



永平寺川上流の永平寺ダム



福井県立大学



永平寺町の景観の現状

(2) 景観行政の課題

本町では、平成20年5月に策定された「永平寺町景観計画」に基づき、永平寺らしい景観づくり等を目標にして、景観行政を推進してきました。

一方で、人口減少・少子高齢化の進展、中部縦貫自動車道など社会基盤整備の進展、目前に控えた北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光誘客の必要性、太陽光発電の普及など地球温暖化対策の必要性、景観に対する皆さんの意識の高まりなど、社会情勢が大きく変化しています。

これまでの景観行政の主な課題は以下のとおりであり、行政による景観整備や建築物等の新築等に伴う届出制度だけで、景観の質を高めていくことには限界がある状況です。

また、景観づくりには人材・資材・資金(予算)の確保も重要になります。

今後の景観づくりについては、全体を見渡した一体的・総合的な取り組みが必要です。

分類	主な課題、必要な対応
【全体】	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物や工作物の新築等に伴う届出制度では、景観の改善や向上が進まない。 ・行政による公共施設の景観整備は部分的。 ・河川や道路、建築物等の景観づくりは各管理者がそれぞれ実施。 ・景観づくりには、全体を見渡した一体的・総合的な取り組みが必要。
農地・ 農村集落	<ul style="list-style-type: none"> ・農地は景観に大きく寄与。休耕田も存在しており、農地の保全が必要。 ・農地と農村集落が調和した一体的な風景づくりが必要。 ・周囲の景観と調和した建築物や工作物の素材への配慮が必要。
市街地	<ul style="list-style-type: none"> ・松岡十二曲り等の周辺では、空き家や空き地が増加。 ・沿道景観としての保全・活用や市街地の賑わい創出が必要。
山地 山林	<ul style="list-style-type: none"> ・人工林が多い。四季を感じられる森林が少ない。 ・太陽光発電設備が山肌に設置されているところもある。
沿道	<ul style="list-style-type: none"> ・永平寺町の入り口となる福井北 IC 周辺では工場などの建築が進んでいる。 ・IC 周辺や永平寺門前周辺の道路では屋外広告物が目立つ。規制等が必要。
眺望	<ul style="list-style-type: none"> ・眺望景観を楽しく安全に見られる場所が多くない。周知や発掘が必要。
建築物	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺景観への配慮や建築物の保全・活用による魅力向上が必要。

(3) 風景まちづくりの必要性

本町の景観をより良く、景観づくりを持続的に進めるためには、町民の皆さんに景観に関心を持っていただき、景観づくりの大切さを実感していただけるよう、景観を守り育てる活動（景観まちづくり）に取り組んでいただけるようなアプローチが必要です。

また、全体を見渡した一体的・総合的な景観まちづくりが必要です。

本計画では、景観をより総合的な「風景まちづくり」として捉え、行政だけでなく町民、地域、事業者等の多様な関係者が身近な風景に触れ、興味を持つことで、自発的な行動に移り広がっていくことにつながります。

風景の変化を徐々に見える化し、地域の活動や観光業等が活性化されることにより、優れた風景には経済的な価値があることを町民・地域・事業者の皆さんに気づいていただくことで、風景まちづくりが広がる好循環サイクルを目指します。

永平寺町の風景を活かして町を活性化するサイクルにより、「住んでよし訪れてよしの永平寺町」を実現します。

